

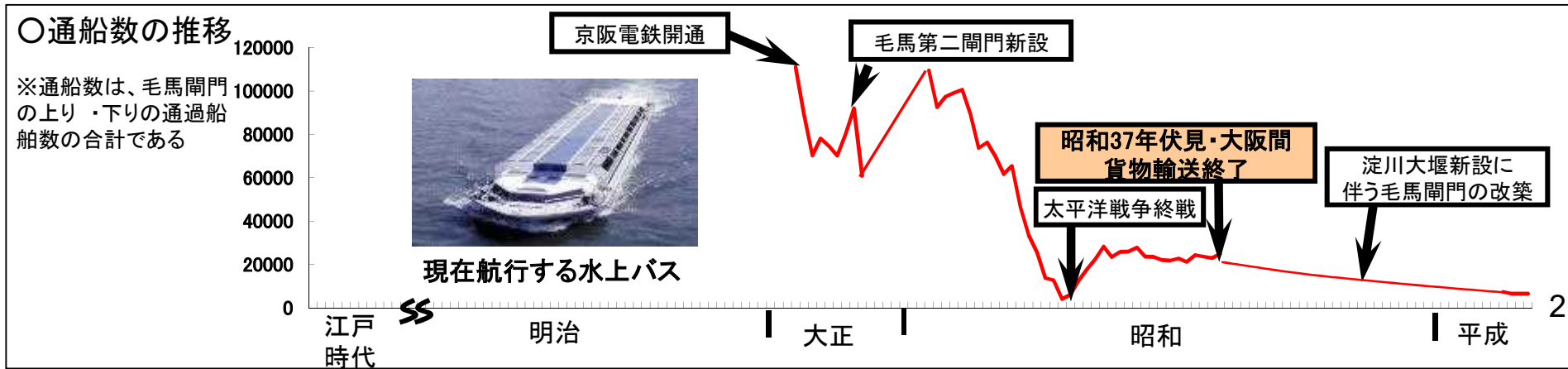
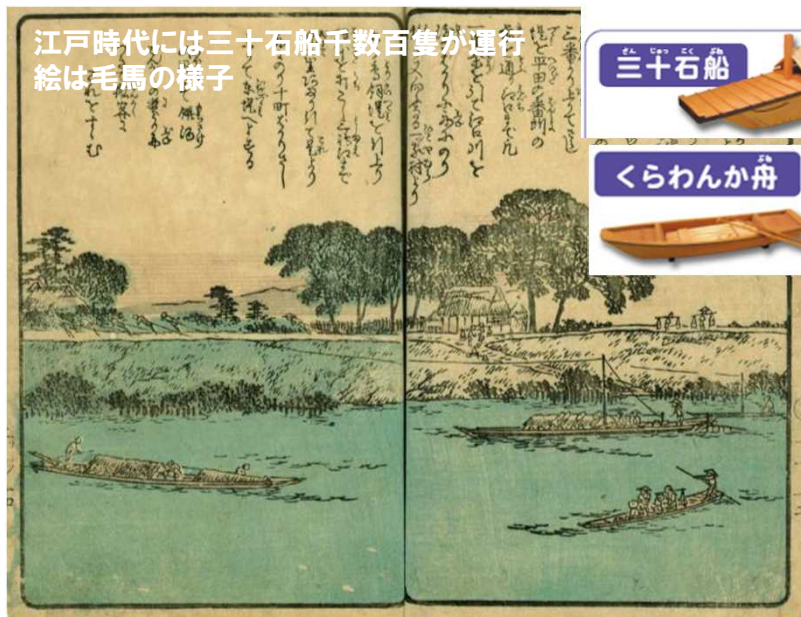
# 淀川舟運の現状について

---

令和4年3月  
近畿地方整備局

# 淀川舟運の繁栄と衰退

- 淀川舟運は、かつて交通の大動脈として大阪・京都を往来。
- 大正時代以降は陸上交通網の発達を受け、昭和37年には貨物輸送が終了。現在は、砂利採取船等の航行や、大川周辺における観光船が中心。



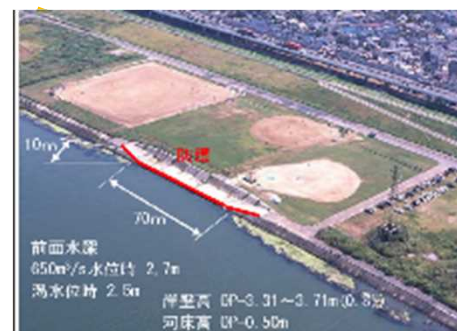
# 淀川舟運復活の契機

- 平成7年阪神淡路大震災の際、陸上交通網が麻痺する中、舟運が被災した堤防の応急復旧作業に活躍したこともあり、その役割が見直し。
- これまで、淀川沿川に緊急用船着場を9箇所（+1箇所整備中）整備するとともに、令和元年度には舟運を活用した災害時緊急調査に関する協定を特定非営利活動法人大阪水上安全協会と締結。

陸上交通が遮断（国道2号）



船舶を使用した復旧工事の状況



緊急用船着場（例、佐太）



災害時緊急訓練（枚方）



# 沿川地域のにぎわい(八軒家～枚方の定期観光船就航による賑わい)

- 平成29年9月から、民間事業者が、毎月第2日曜日を中心に大阪の八軒家浜から枚方までをつなぐ観光船の運行を開始。
- 毎月第2日曜日には枚方市の枚方宿内(京街道)で「枚方宿くらわんか五六市」などが開催されており、観光船の運航と連携することで地域の賑わいづくりに寄与。



ひまわりで巡る KEIHAN

## 淀川浪漫紀行

～歴史のロマンを感じながら約3時間の優雅な淀川クルーズ～

淀川を知り尽くした語り部が古の船旅へと誘います

上りの新コース  
下りの新コース

料金 5,000円  
小学生以下 3,150円(税込)

運航スケジュール

4/29・30	5/2・3・8・9	6/12・13	9/12・25・26
10/9・10	11/6・11・13・14・20	12/12	2/13
3/13			

五六市開催 奉文亭の運航日は、枚方船着場周辺(淀川大堰)で開催予定

- 現在、大阪市淀川区の十三地区において緊急用船着場を整備中。
- 淀川区は、旧区役所跡地の再開発や船着場整備を契機に、淀川河川敷十三エリアの魅力向上のため、かわまち支援制度を活用した周辺整備について令和2年度末より議論を開始（R3.3.31淀川河川敷十三エリア魅力向上協議会設立）。
- 7月には住民主体で地域のにぎわいづくりを議論する「よどがわワイガヤ推進委員会」も発足。10月には河川空間を賑わいのある空間として活用するためのアイデアと市場性の有無について募る「マーケットサウンディング」の公募を開始。



十三地区河川敷 (R3.3)

### 淀川河川敷十三エリア魅力向上協議会 (R3.3.31設立) 構成員

大阪市 (淀川区、計画調整局)  
 大阪都市計画局  
 近畿地整 (淀川河川事務所、河川部、建政部)  
 地元団体 (地域活動協議会、連合振興町会、商店会連盟会、大阪商工会議所)  
 民間事業者等 (公園財団、阪急電鉄、水都大阪コンソーシアム)

### 4 コンセプト

「子どもから大人まで多様な人が自然に集い、交流の輪が広がり、人が繋がる河川敷」

- ・にぎわい (食事・交流)
- ・読書
- ・健康・スポーツ
- ・景観
- ・親水空間

■ 河川敷の機能アップ  
 ■ 十三エリアのブランド向上  
 ■ にぎわいづくりや交流促進につながる空間と建物の整備  
 ■ 干潟等の自然環境との共存

沿川住民の日常的な利用

現状の魅力 協議会により生み出していく新たな魅力

多様なレジャーの提供 楽しみのある空間 水辺のつながりと交流

多くの人がくつろげる空間 自然との共存 夜更生をかすめながら

### 【十三・淀川区の魅力向上から、大阪のブランド向上へ】

- ・近畿地方整備局により、十三船着き場整備及び芝生化 (令和3年度末完成予定)
- ・淀川大堰開門の設置への期待
- ⇒ 今後の淀川区役所跡地の新施設整備や万博開催に向けて、淀川河川敷十三エリアのさらなる魅力向上の取り組みとして、公共・民間・地域の力を合わせて地域に愛される交流空間をつくり、十三のまちのイメージの変化を住民が喜び、一緒に育てていくことで、
- 十三の一体的な魅力向上、淀川区全体のブランド向上につなげる
- ⇒さらには、淀川の上下流へ広がり、大阪全体の魅力向上への寄与



### 淀川河川敷十三エリア (今後のスケジュール)

【全体スケジュール(予定)】

年度	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
船着き場整備	開始	完了					
芝生化整備	開始	完了					
イベント		事業計画	にぎわいづくり (PR)				
協議会	発足	第1回	第2回	事業計画決定			
かわまち支援制度	開始	継続	継続	継続			
施設整備							
建築等							
区役所跡地		転売					

【協議会の検討内容】

第1回協議会 (令和3年3月31日開催)  
 ⇒大きなねらい、方向性 (サービス施設、のり面、親水空間)、スケジュールの確認

第2回協議会 (令和3年9月14日開催)  
 ⇒マーケットサウンディングの実施による事業の内容 (ハード・ソフト) や範囲の整理

第3回協議会 (令和4年2月~3月) マーケットサウンディング結果報告、かわまち事業計画の申請等

(第4回以降) 官民ハード整備の実施、イベント等の実施

### 5 調査対象エリア

- (1)堤防の裏のり面
- (2)多目的空間 (河川公園)
- (3)親水空間
- (4)一体的な活用 ((1)~(3)すべて)
- (5)その他

【河川ならではの特徴】

(2)、(3)では、大雨などが発生した場合 (出水時)、すべての設置物の撤去が必要となります。また、(1)についても、水防活動等のため緊急の必要があるときは、設置物の移動・撤去が必要となる場合があります。



引き込み管や人孔等の詳細位置については各埋設企業体にご確認いただく必要があります。



# 沿川地域のにぎわい(伏見港「みなとオアシス」登録)

- 令和3年4月30日 伏見港が「川のみなとオアシス水のまち 京都・伏見」としてみなとオアシスに登録(全国で148箇所目)
- 「川のみなとオアシス水のまち 京都・伏見」運営・まちづくり協議会では、WGを設置し、賑わいづくり(ソフト)・伏見港整備(ハード)の両面で検討

## 令和3年度の取組状況

- 令和3年4月30日  
伏見港が「川のみなとオアシス水のまち 京都・伏見」としてみなとオアシスに登録(全国で148箇所目)
- 令和3年6月21日  
伏見港パートナー制度の創設(令和4年2月末時点62名登録)
- 令和3年6月28日  
伏見港みなとオアシス登録証の交付
- 令和3年10月28日  
今後のまちづくりに向けた意見交換やつながりづくりを目的に、第1回伏見港パートナー交流会を開催(23名が参加)※3月17日第2回を開催予定
- 令和3年11月13日、14日  
登録記念イベント『伏見みなとの賑わい広場』を開催(2日間で約3,100名が来場)同時開催イベント  
・伏見港パートナー主催:『伏見みなとあかり』  
・国土交通省淀川河川事務所主催:伏見クルーズ(伏見~背割堤間の舟運社会実験)  
・京都伏見ロータリークラブ主催:伏見港「みなとオアシス」登録記念植樹・式典



## 伏見の「みなと」を中心としたまちづくりビジョン(案)

**みんなでつろう伏見みなとまち**  
~水と歴史を活かした「みなと暮らし」を楽しめるまちづくり~

- オール伏見(区民、民間、団体、行政)の連携で生み出すまちづくり
- 伏見ならではの歴史や魅力を活かした持続可能な賑わいづくり
- 伏見港やみなとオアシスの魅力を十分に発信できる空間づくり

方針1	方針2	方針3
<p><b>誰もが楽しめる安心安全な水辺空間づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 日常の憩いの場や、時にはイベントの場として、誰もが安心安全に利用できる空間をつくります</li> <li>○ 滞在しながら楽しめる伏見みなと公園広場及び周辺の整備</li> <li>○ 施設の老朽化対策の実施</li> <li>○ バリアフリー化や園路の改良、防災機能整備の検討</li> <li>○ 川を安全に利用するためのルールづくり</li> <li>○ 十石舟関連施設のリニューアル</li> </ul>	<p><b>伏見の水と歴史を活かした賑わいと暮らしの創出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 港町、歴史など伏見の多様な魅力をアピールできる、賑わいの場をつくります</li> <li>○ 伏見みなと公園広場を核とした新たな賑わいづくり(利活用のルールづくりやマネジメントの向上)</li> <li>○ 歴史ある町並みと水辺を活かした景観づくり</li> <li>○ 水辺を活かしたアクティビティの創出</li> <li>○ 暮らしの中で水辺、文化を楽しむ機会の創出</li> <li>○ 淀川舟運プロジェクトとの連携</li> </ul>	<p><b>まちの回遊性向上と伏見らしい魅力・体験の創出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 水辺とまちの回遊性を向上させ、港町ならではのイベントや体験の創出、魅力のさらなる情報発信</li> <li>○ 回遊を促すサインや仕組み等の整備</li> <li>○ 伏見の名所を巡り、歴史や食などの文化を知る機会の拡大</li> <li>○ 特産品販売や体験イベント等による地域と観光客の交流拡大</li> <li>○ SNSなどを活かした情報発信力の強化</li> </ul>

○まちづくりのイメージ(案)に掲げる方針の実現に向け、伏見港周辺を4つのエリアに区分し、各エリアが連携し、一日中楽しく回遊できるようなまちづくりを推進  
○伏見に興味をもち、伏見を愛する“伏見ファン”を獲得し、「2025年大阪・関西万博」を見据えた新たな観光需要も取り込んだまちづくりを官民一体で推進

**派流沿いエリア**  
安全快適に歩ける河川空間  
水辺景観を楽しみながら十石舟や徒歩で移動でき、「広場エリア」や「にぎわいエリア」にもつながる空間

**にぎわいエリア**  
地域と観光客の交流の場  
広場エリアとの回遊性を向上させながら、歴史や文化、食など伏見の魅力に出会い、体験できるエリア

**駅前エリア**  
伏見回遊の新たな玄関口  
中書島駅を来訪者の玄関口として、広場エリアをはじめとした各エリアに円滑に誘導し、回遊の拠点となるエリア

**広場エリア**  
誰もが楽しめる親水空間  
中書島駅から近く、宇治川にも接続する立地を活かした、誰もが楽しめる居心地の良い親水空間

デジタルサイネージ シンボリックデザイン  
デジタルサイネージ シンボリックデザイン

伏見みなと公園(整備継続)

淀川舟運プロジェクト

淀川の舟運への期待



# 沿川地域のにぎわい(天ヶ瀬ダム～宇治橋かわまちづくり登録)

- 宇治市では、「戦略的な産業活性化の推進」として、歴史遺産、宇治茶、自然・景観等、貴重な財産を活かし、観光振興・地域の活力向上のための取り組みを実施。
- 天ヶ瀬ダムを観光資源として有効活用し、管理用通路等を整備することにより市街地との周遊性を向上させる他、民間事業者にも参画を促し、イベント等を開催
- 国土交通省では、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間で営利活動を実施する場合には、河川占用敷地許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施。

## ○ハード整備の内容

国交省：管理用通路整備、敷地造成工、法面保護工  
 宇治市：上面施設整備（転落防止柵、東屋、舗装、植栽等）



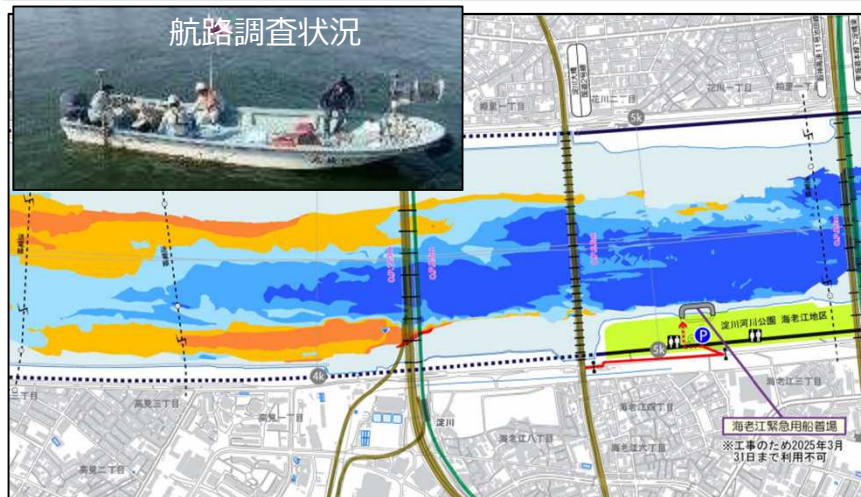
## 利用イメージ





# 河川管理者の取り組み(航路確保、水深調査、社会実験)

- 淀川河口部から宇治まで航路調査を実施するとともに、調査結果について沿川自治体及び舟運事業者等に情報共有。航行の支障となる堆砂や支障物については、順次除去工事を実施。
- 舟運の実現に向けた沿川自治体からの支援要望を踏まえ、河川の利活用の観点からの舟運の実現性・有効性を確認するため、沿川自治体や舟運事業者と連携した社会実験を継続して実施。



航路調査の実施及び調査結果の整理・共有 (R 2)



大塚周辺の維持掘削 (R 2)

## ○近年の社会実験



サイクリングとの連携 (R 1)



災害時緊急調査訓練 (R 2)



淀川ワイガヤ推進委員との船上意見交換会 (R 3)



秋の伏見～背割堤クルーズ (R 3)



# 河川管理者の取り組み(これまでの調査等から判明した課題)

- 令和2年度に実施した水深調査の結果、淀川大堰上流～伏見までの航行に支障となる箇所は、枚方大橋周辺・三川合流点下流・伏見港下流の3箇所。
- 枚方大橋周辺は、淀川大堰湛水区間の上流端のため、土砂堆積が顕著で大型船の航行が困難。
- 三川合流点下流では、水深が浅く流速の速い岩礁帯が存在し、大型船の航行が不可。
- 伏見港下流では、岸側高水敷の侵食に起因する偏流発生のため、中型船の航行が不可。

※大型船：定員100名程度 中型船：定員60名程度

## ○枚方大橋周辺

河口から  
26k付近



## ○三川合流部下流

河口から  
34k付近



## ○伏見港下流

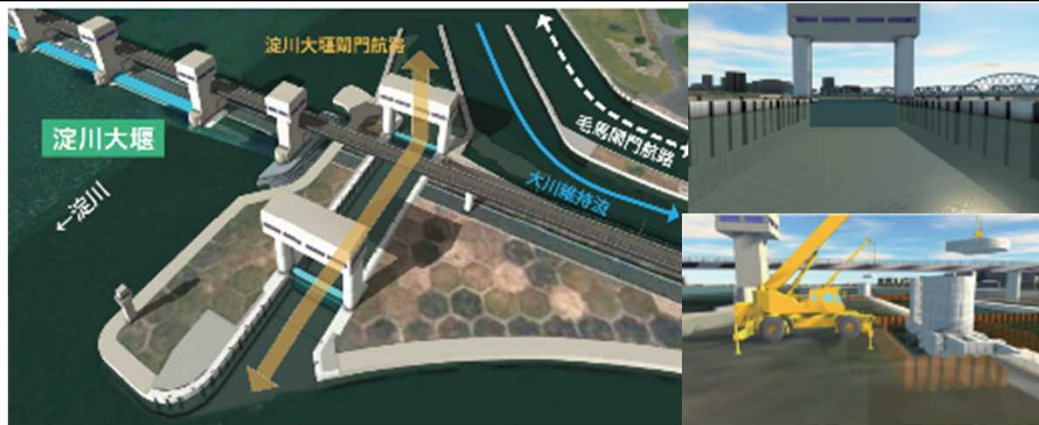
河口から  
43k付近





# 河川管理者の取り組み(淀川大堰閘門の整備)

- 現在、淀川の上下流の航行を分断している淀川大堰の左岸側に閘門を整備するもの。
- 令和3年度事業化、2025年大阪・関西万博までの完成を目指し最新技術を活用して整備中。
- 淀川舟運の平常時・災害時利用に資する施設として、沿川自治体からの期待も大きい。



↑ 3Dモデルの活用



淀川大堰閘門施設諸元  
 閘室幅：20m  
 閘室長：70m  
 通行可能船舶：100～500t級台船  
 船舶通過時間：約20分

## 災害時 舟運を利用した復旧活動



阪神淡路大震災における舟運を活用した堤防復旧

阪神淡路大震災の際には、被災した淀川堤防の復旧に舟運が活用されました。災害時には陸上交通が麻痺することが想定されるため、舟運の活躍が期待されます。

## 公共工事 淀川沿川の公共工事への活用



阪神なんば線淀川橋梁架け替え工事における舟運の活用

淀川の舟運はこれまで淀川大堰より下流域の一部の公共工事で活用されてきましたが、淀川大堰閘門の完成により、上流域を含む淀川沿川の様々な公共工事で、大規模な資機材や大量の土砂等の運搬に舟運の活用が期待されます。

## 観光 船で京都へ、万博へ



上流【背割堤の桜と花見船】と下流【万博会場・夢洲】の観光資源  
 ※提供：2025年日本国際博覧会協会

淀川大堰閘門が完成することによって、京都から大阪までの航路がつながることになります。2025年大阪・関西万博の会場である夢洲までの航路としての期待も高まります。



沿川自治体からの要望 (R3.8 淀川舟運整備推進協議会)



# 2025年大阪・関西万博を見据えた動きについて

- 2025（令和7）年に大阪・夢洲にて万博が開催予定。
- 「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに先端技術など世界の英知を集め、新たなアイデアを創造・発信する場となる。
- 世界中からの集客が期待され、夢洲だけでなく、関西全体の活性化を促進する絶好の機会。



・ 想定来場者数 → **約2,820万人**

・ 経済波及効果（試算値） → **約2兆円**

## ・ 交通アクセスについて

→2025年大阪・関西万博では、会場へ船でのアクセスも検討。旅客の乗降場は夢洲の北側エリアに設けることを想定。



## （民間事業者による社会実験）

大阪水上バスでは、万博開催及び万博以降の水上交通の活性化をにらみ、令和4年1月に社会実験を実施。（船の運航については他の舟運事業者も参画）（以下、報告書抜粋）

### ○ 実験結果（A：舞洲～十三※ルート）

- ・ 川舟での海域の航行時の揺れを確認（喫水が浅く軽い船体を使用）。
- ・ 水深に関しては潮位変化に注意が必要。
- ・ 駅から船着場の距離が課題だが、多様なニーズが感じられる。

※新北野緊急用船着場を使用

